

A. U. 社会システム学科・3 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は高校 1 年生の時から留学に興味をもち、準備してきました。小さいころから英語を習っていて、国際科の高校に通っていたことで自然と海外に興味を持っていました。また、学生のうちにしかできないことを経験しておきたいという思いもありました。高校生の時にも何度か学校や政府が行っている留学支援制度に応募してきましたが、海外の大学に通うという留学は実現できていなかったのが高校生の時から絶対に大学で留学すると決めていました。大学に入学してからコロナの影響で協定留学が中止されていたことであきらめかけていましたが、無事に再開されたのですぐに応募しました。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

まず、留学を決めて募集要項を見ると語学に関する資格を取得しなければいけないことがわかったので、すぐに受験予約して、本屋さんで参考書を買いました。語学資格の中でも、私は IELTS を受験しました。理由は出願までにテストを受験できるのが IELTS だけだったからです。IELTS は聞く・書く・読む・話す、の 4 技能がテストされます。IELTS の具体的な勉強法は、過去問が掲載されている参考書を解き、間違ったところを復習しました。私は高校でライティングをたくさん学んだので、ライティングの勉強は特にしませんでした。あまり経験がない人にとっては一番難しい設問になると思うので、何度か練習して英語の先生に添削してもらおうなどするとよいのではないかと思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから出発までは本当にすることがたくさんあり、あっという間に時間が過ぎると思います。語学の勉強としては、教材を使って文法や単語を勉強するのではなく、洋画を積極的に観たり、アメリカ人のユーチューバーを見たりしていました。授業についていくには難しい文法や単語を知っておくことも大切ですが、せっかく海外に行きたいことは現地の学生や留学生と会話することだったので、現地の若者がよく使う単語や表現方法、会話のテンポなどを知るのにユーチューブは効果的でした。語学勉強もしながら、大学出願、パスポートの更新、ワクチン接種、ビザの取得、航空券の手配、履修科目の選択など出発までにしなければいけないことが本当にたくさんあり、どれも簡単に終わるものではなかったのが大変なところでした。色々なことがある中で、特に早目に行動したほうがよいと思ったのはワクチン接種とビザの取得です。チャタム大学はほかの大学に比べて接種しなければいけないワクチンが多かったと思います。私は海外渡航ワクチン接種に対応している病院があり、一つの病院ですべてのワクチンを完了することができましたが、そういった病院は少ないと思うので、病院探しから予約を取って計画的に行動しな

いと間に合わないので早目の行動が大切だと思います。そして、ビザの取得も 1、2 か月はかかると思います。ビザ申請の大変なところはどのように申請し、どんな資料を用意しなければいけないのかなどを自分で調べなくてはいけないところでした。しかし、何をすればいいのかがわかると意外とプロセスは簡単かと思います。どの手続きにおいても早め早めの行動が本当に大切です、同時進行でいろんなことをやらなくてはいけなくなるのでスケジュール管理も大切だと思います。

④ 現地到着後

ピッツバーグ国際空港に着き、キャリーケースを待っていた時に現地の国際課の方が私を見つけてくれて合流することができました。ほかの留学生も同様に国際課の方がどのフライトに乗っているか把握していて、こちらが見つけられなくても見つけてくれました。空港からは同じ時間帯に到着した留学生たちと一緒に国際課の方の車に 1~1 時間半乗って寮につきました。到着後カギと ID カードを渡され、あとは自分たちの部屋に行ってゆっくりしました。ここで注意したいことが、到着した日は特に予定はなく完全フリータイムなのですが、食堂はあいておらず、部屋にも 1 人で、まだ友達もできていない状態だったので夜ご飯をどうしたらいいのかわからなかったです。到着してすぐはどこにスーパーがあるのかなどもわからないと思うので、あらかじめ 1 日分の飲み物、食事は持って行っておいた方がよいと思います。到着してから 2 日後くらいに留学生オリエンテーションがあり、大学の設備、気を付けるべきことなど細かく教えてくれました。チャタム大学は新学期オリエンテーションが充実していて、学校のことだけでなくピッツバーグを散策できるツアーのようなものが何度も開催されていて、町にもすぐに慣れることができると思います。現地の学生や職員の方々も親切なので分からないことがあれば聞いて良い雰囲気です。

⑤ 語学研修期間

◆ 授業内容、課題、試験

すぐに正規科目を受けるプログラムだったのでわかりません。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学自体は歴史のある建物で、最新の設備などがあるわけではありませんが茶色がベースであることやキャンパスに緑が多いこと、教会があることなど同女の京田辺キャンパスと似ていてとても落ち着く雰囲気です。キャンパスの敷地もアメリカの大学にしては小規模で教室間の移動も楽でした。私が留学した時から食堂がリニューアルされ、とてもきれいで、食べ物もおいしかったです。キャンパス内にミールプランが使えるカフェもありました。私がよく利用していたのは図書館で、予約すれば完全個室の勉強スペースを使用でき、テスト前や一人になりたいときに使っていました。キャンパス内にはウサギ、リス、

シカなどがいてとてもかわいかったです。

◆ 履修科目

履修した科目名：

・ American Literature

アメリカの文学について学ぶ授業で、一学期間に 2~3 冊の本を読みます。授業中はテキストの答え合わせをグループに分かれてする時間が長かったです。この授業は留学生しかいない授業でした。評価方法はエッセイ、小テスト、中間・期末テストなどでした。

・ Introduction to Anthropology

人類学の授業です。私はゼミで文化人類学を専攻しているので取りました。授業内容としては一番難しかったです。毎授業前に教科書を読んできてそれを詳しく先生が講義してくれる形です。少人数で発言を求められる機会も多かったんです。評価の仕方はエッセイ、ディスカッションの参加度、テストなどでした。難しいですが教授の人柄がとても良いのでお勧めです。

・ Introduction to Genocide Studies

虐殺の歴史を学ぶ授業でした。実際の虐殺の映像などを見たり、教授の講義、後半はグループディスカッションが多かったです。小テストの頻度が高いですがあらかじめ配られる用語の定義を暗記するものなので満点を取って評価につながれると思います。小テストのほかにもテスト、意見を書くエッセイなどもありました。

・ Introduction to Philosophy

哲学の授業です。基本的に講義形式の授業です。レポートの数がとても多いですが、哲学なので自分の意見を述べるものが多く、とても大変というわけではありません。教授もとてもやさしく、いつも気遣ってくださいました。テストはなくレポートで評価されました。

・ Hip Hop Dance Level1

ヒップホップの授業です。比較的本格的なダンスの授業で、2 週間に一つのダンスを完成させていくペースでした。評価方法は最終授業の日のパフォーマンスか芸術鑑賞のレポートのどちらかを選ぶことができ、私は友達とパフォーマンスをしました。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私は近くにあったピッツバーグ大学というところの K-POP ダンスサークルに所属していました。留学に行く前は特にサークルに入る予定はなかったのですが、たまたまインスタグラムでそのサークルの存在を知ったことと、思ったより英語を話す機会が持てていないことが悩みだったので、挑戦してみることにしました。まずは DM で他大学からも参加できるのかを聞き、参加できるとのことだったので、自分が踊りたいグループに応募して、週に 2、3 回バスでピッツバーグ大学に通って練習していました。このサークルには自分一人で参加したので最初は輪に入れるか不安でしたが、チームのメンバーは優しく、日

本にも興味を持ってきていて練習終わりにご飯を食べに行ったり、帰国前にも遊びに誘ってくれました。練習したダンスをステージで披露したり、YouTube 撮影もして、すごくいい思い出になって、挑戦してよかったと思っています。

⑧ 現地での住まいについて

具体的にどの寮かまでは決めることができません。ただ、国際課の方の話によると 3、4 年生はキャンパス下のチャタムアパートに入居することが多いそうで、私もそうでした。教室にはエアコン設備がありますが、寮にはありません。食事はミールプランを主に使い、たまに自炊をしていました。自炊をした方がミールプランの 1 回分の金額より安く抑えられます。通学時間はキャンパスの下にあるアパートから 5 分ほどです。

⑨ 長期休暇の過ごし方

サンクスギビング・ホリデーなどは旅行に行っていました。自分の行ってみたかった土地に行っているような経験をするにお金を使おうと思っていたので、普段の生活を節約して旅行を楽しめるようにしていました。飛行機の値段などは本当に時期によって大きな差があるので、常にチェックして安い時に予約すると、とても費用が抑えられます。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

4 カ月しかない留学期間を精一杯楽しみ、充実したものにするため、就職活動はしていませんでした。他大学の日本人留学生は、夜中にウェブで会社説明会に参加したりもしていましたが、結局生活リズムが崩れて勉強に集中できなかったり、不安だけが募っていつている様子だったので、人それぞれだとは思いますが、留学に集中することも大切なのではないかと思います。実際、私自身も 12 月に日本に帰った時には、もう周りは早期選考で内定をもらったりしているのかもしれないと思っていましたが、意外と自分とあまり変わらないのが現状で特別遅れているという実感はないので、就職のことよりも留学でしか得られない経験に時間を使い、それを就職活動でアピールするのがよいと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中に楽しかったのは、長期休みの旅行です。アメリカの大学は授業前の予習や、テストも毎週のようにありとても大変だったので、長期休みの旅行をモチベーションに頑張っていました。私が旅行で行ったのは、シカゴ、LA、ニューヨークです。土地ごとに色があってとても面白かったですし、海外でも自分たちで旅行を楽しめたことは自信にもつながりました。旅行中は観光でアメリカに来られた気分になってとてもリフレッシュになり、また学校の勉強を頑張ろうという気持ちになりました。アメリカ本土に行けることはなかなかないと思うので、ぜひいろんなところに行くと思います。私のお勧めは LA です。広い道路やビーチは私が想像していた「アメリカ」で、すごくアメリカを感じられた場所でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中でつらかったことは授業です。私は正規科目が始まる前の英語研修プログラムに参加していなかったため、すごく不安でした。1 週目の授業ではおそらくシラバスの説明しかされていないにもかかわらず、教授が話したことの 2 割くらいしか理解することができず、ちゃんと単位が取れるのか不安になり泣いてしまった日もありました。少しずつ授業に慣れてきても、新たな試練が次々にありました。授業が理解できるようになったと思ったら、教授から「発言しないと参加点が下がるよ」という風に中間評価で言われたりしました。アメリカは移民が多くいろんな人種の人がいることが当たり前で、英語が母語でない人も多いです。だからこそ、留学生だからというひいきがありません。うまくしゃべれなくてもいいから、現地の学生と同じように発言する姿勢が求められました。それが私にとってはすごく勇気のいることで、最初は、のどまで言葉が来ているのに手を挙げて発言することができず悔しかったです。でも、自分の発言に自信を持てるよう、予習にさらに力を入れました。簡単な質問にしか答えられなかったですし、声も小さく何度も聞き返されましたが、先生もほかの学生もばかにすることなく、いい意味で私のことなんて気にしていなかったです。そのため、わかる問題には怖がらずにどんどん答えることが大切でしたし、自分の成長につながりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

アメリカのことをある程度知った状態で行ったので、すごく驚いたことはなかったですが、気を付けるべきだと思うのは薬物です。ペンシルベニア州はドラッグが合法だったと思うので、バスや町でも日本で嗅いだことのないマリファナの匂いがしていることがよくあります。日本では、なかなか薬物依存症の方に出会う機会はないと思いますが、アメリカにはそういった方と対面する機会がないわけではないので、常に自分の身を守るために周りに注意を払うことが必要だと思います。時間にルーズなことは有名かもしれませんが本当にそういう文化があると思うので、バスは 5~30 分ほど待つことになると思いますし、飛行機の国内線はほとんどの確率で遅延します。旅行に行く際には時間に余裕を持ったプランや国際線と同じくらい余裕を持って空港に行くことをお勧めします。お店の開店時間がスタッフの都合で 1 時間半遅れて、外で待たされたこともあるので、寛容な気持ちで文化の違いを楽しむことが大切だと思います。日本と同じ文化じゃないからこそ面白くて、それが留学の醍醐味だと思うので、新しい発見だと思うポジティブ・マインドで楽しんでください。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

チャタム大学は本当に良い大学で、チャタム大学に留学してよかったと思っています。いろんな理由がありますがいくつか挙げさせていただくと、まず立地です。チャタム大学の周りにはスーパーもたくさんありますし、買い物できるストリートが歩いていける距離にいく

つもあることや、学生の街でチャタム大学以外にもいくつか大学が近くにあり、街を歩いていても同じ年代の若者がたくさんいるのが安心できるポイントでもありました。学校の ID カードを使えばバスなど公共交通機関が無料で使えるので、本当に出かけやすい環境でした。バスで 30 分から 1 時間の距離に大型ショッピングモールや動物園、美術館などもあり、休みの日に退屈することはないかと思います。学業だけでなく、休日にも存分に楽しみたいと思っている人には本当におすすめです。次に、人が優しいことです。国際課の方々をはじめ、教授方も本当に親切です。聞いたことはもちろん答えてくださいますし、向こうからも「授業の内容についてこれてる？」などと声をかけてくれましたし、最初の授業の時に自分が留学生でこの授業についていけるか不安です。という話をしたら、わざわざメールで日本語の文献を送ってくださるような教授もいました。学生もすごくフレンドリーというわけではないですが、いやな態度をしてくる人は一人もいませんでした。

悪かった点は、特になのですが強いて言えば、現地の学生と友達になりにくいことです。留学生オリエンテーションなどで、ほかの国から来た留学生などとはすぐに友達になれたのですが、いざクラスが始まり自分しか留学生がいないという状況で、現地の学生と話す機会があまりなかったり、話せても会話が続けられなかったりしたことが残念でした。日本語クラスがあり、日本に興味を持ってくれている学生はたくさんいるので仲良くなりたかったのですが、日本語サークルのようなものもなく、集まるのが難しく、顔見知り程度の関係しか築けない人も多かったです。もっと留学生と現地の学生が接点を持てる機会がたくさんあればよかったなと思います。あとは、チャタム大学はスポーツチームが多く、部活同士で動いている学生が多かったり、少人数の学校だからこそもうすでにコミュニティができていたりしていて、留学生が入りにくい環境ではあるかと思います。それは仕方のないことではあると思うので、当たって砕けろで自分から積極的に話しかけていければよかったなと少し後悔しています。ただ、現地の学生と全く友達になれなかったわけではなく、仲良くしてくれた子はいいて、その子が日本に旅行に来た際には京都を案内しました。気づいた点としては、日本では友達というと、常に一緒にいて何でも話す親密な関係を想像すると思うのですが、アメリカは個人主義が強い文化だと思うので、現地の学生同士でも、友達だと思っていたら次に会った時には他人のような振る舞いをしている場面も見たので、「留学生だから」という理由ではないと思うので、気にしなくてもいいところではあります。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持って行きました。レポートを書く機会が多いので絶対に持って行った方がよいと思います。生理用品や日本食なども代表的かもしれませんがもって行ってよかったと思いました。総じて言えるのは、スーツケースが許す限りなんでも日本から持って行った方がよいと思いました。私が留学していた期間は円安の影響が一番きつい時期だったので、「現地で買えばいいや」という思いできたことを何度も後悔しました。タオル、冬服、お箸、

水筒、食器なども日本より高いので持っていけるなら持って行き、帰るときに結局スーツケースに余裕がなくて捨てていくものもあると思うので、現地で買ったものを捨てるより、家である程度使っていたものを現地で捨てる方が気持ちが良いと思います。パソコンが入る大きさのリュックも持って行くことをお勧めします。現地の学生も 8 割くらいがリュックですし、旅行のときなどにもリュックは必要になると思います。逆に要らないものは、ヒールなどの靴です。現地ではスニーカーしか履かなかったのでも、場所をとるヒールなどの靴は要らなかったです。アメリカの学生は基本的にスウェットやジーンズに T シャツのようなカジュアルなスタイルの人が多く、同女の皆さんのようにおしゃれに気を遣っている人は少ないですので、日本と同じ格好でキャンパスを歩くと浮いてしまうと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力に関しては、留学する前より向上したと思います。聞き取りはもちろん伸びて、最初は聞き取れなかったなまりのある英語で話しかけられても理解できるようになり、聞き取れないことのストレスはなくなっていました。読み書きも課題をするうえでのおのずと伸びていきました。一番大変だったのがスピーキングでした。スピーキングに関しては、自分が意識して特訓しなければ上達しにくい分野でした。周りには日本人の留学生もいますし、協定留学に行けるくらいなのである程度の英語は話せる状態だと思うので、一日長文を話さずに過ごすことができってしまう状況になることもあると思います。だからこそ、日本人との距離感を考えたり、積極的に英語を話さないといけなかった環境に飛び込んだりすることがとても大切でした。私が具体的にしたことは、他大学のサークルに一人で参加したことや、一人でスーパーに行ってあえて店員さんに「この商品ありますか」と話しかけてみたり、セルフレジではなく有人レジに並んで少しでも会話したりするように心がけました。仲良くなれた人はご飯に誘い、もっと深く話す機会も作っていました。そういった努力もあってか、発音もよくなり、お店で注文するときや授業で発表するときに聞き返されることがなくなり、英語を話すことに対する抵抗がなくなったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

色々な留学がある中でも、海外の大学に留学できるのは大学生のうちにしかすることができないことだと思います。そのチャンスを絶対につかんでほしいですし、留学は大変な面もありますが、それよりも得られることの方が多いと思いますので頑張ってください。SNS が普及していて、いろんな情報がすぐに得られることで海外に対する興味が少なくなっている人もいますが、行ってみないとわからないことはたくさんあるので、ぜひ挑戦してほしいです。その中でも、チャタム大学は本当にいい大学なのでぜひチャタム大学に留学してほしいです。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

今後の進路としては、まだ就職活動中で決定はしていませんが営業職として働きたいと思っています。英語を使った仕事ではないですが、留学で培ったチャレンジ精神、忍耐力などを武器に活躍できたらと思っています。留学に行ったことで、改めて海外に行くことの楽しさを実感したので社会人になっても定期的にいろんな国に旅行に行きたいです。

V. 写真



K-POP ダンスサークルのみんなです。



ピッツバーグのダウンタウンです。



カフェテリアのスイーツコーナーです。朝昼晩いつでもおいしいスイーツがあります。食べ放題です。ドリンクバーもあります。



友達といったクリスマスのライトアップです。スケートリンクがあり、花火も打ち上げられていました。